



St. Luke's International University Chapel

聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL 03-5550-2416 (事務室)

E-mail : chapel@luke.ac.jp URL <http://nssk.org/tokyo/church/luke>

ヨハネ福音書 6:37 - 51 (聖霊降臨後第 12 主日、24/08/11)

「糧」

チャプレン ヨナ 成成鍾司祭

不平等はなぜ、いつからあったのでしょうか。政治哲学の古典、ジャン・ジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778) の『人間不平等起源論』によりますと、不平等には二種類あります。一つは自然的(身体的)な不平等で、背の高さや頭の良さなど生まれつき自然的に発生するものです。もう一つは社会的(政治的)な不平等で、これは社会の営みにおいて発生しているものとして、例えば地位、権力、財力などが原因になります。社会的な不平等は、人間が穀物など自分たちの持ち物を蓄え、また守ろうとする試みから始まったので、人類の歴史のかなり早い段階からありました。人類学や歴史学者たちによりますと、人間が耕作を始めることによって収穫物や土地への所有権が生じ、人々の間に最初の不平等や支配構造が発生し、そこから争いが勃発するようになったというのです。争いというのは、単純に言えば守りと奪い取りの過程であるわけですが、それが個人間を超えて組織や国のレベルにまで発展すると戦争という言葉で表現されます。人類は、糧の獲得と蓄えの過程の中で歴史や文化などを築き、またその一方でそれを破壊する戦争を繰り返しています。人類の進化が著しい今の時代においても、その皮肉な状況に変わりはありません。

人を生かすための糧が、逆に不平等や差別、甚だしくは人を殺す糧になってしまうこともあるので、糧をめぐる様々な問題は有史以来、人類が抱えてきた最大の課題だとも言えます。それゆえ、古今東西を問わず多くの学問や宗教的な先覚者たちが糧についての提言を残しましたが、今日の福音書が含まれているヨハネ福音書6章もその一環として読み取ることができます。それによりますと、キリストはなんとご自身のことを「命のパン」(48節)だと語られました。そして実際に「世を生かすための肉」(51節)として自己存在そのものを惜しみなく分け与え、人々を救うために身を捧げたのです。つまり、命そのものだとも言える糧というものは、自分だけのものではなく皆のものであり、所有するものではなく皆と分かち合うものである、ということを生らの体を以って物語り、その精神を私たちに残してくださったわけです。

『製パン王キム・タック』(2021)というドラマの中、師匠が後継者を決めるために弟子たちにパン職人として心に刻むべき三つの課題を出す場面があります。課題とは「世界で最もお腹を満たすパン」、「世界で最も面白いパン」、「世界で最も幸せなパン」を作ることでした。師匠が出した課題には、それぞれ大事な教えが込められていました。一つ目の「世界で最もお腹を満たすパン」には、人々のことを思いやる心をパンに込めるべきという教えが、二つ目の「世界で最も面白いパン」には、人々だけではなく自分自身が楽しむ心を育つべきという教えが、そして三つ目の「世界で最も幸せなパン」には、これからの人生を通して喜びを以って継続的に作っていくパンであるべき、という意味が込められていました。この三つのパンは、「命のパン」であるキリストのことを連想させてくれます。つまり、キリストこそ「最もお腹を満たすパン」として人々のことを思いやり、「最も面白いパン」として私たち一人ひとりのことをユニークなものとして養ってくださり、だからこそ「最も幸せなパン」として生涯を通して求めていくべき存在である、ということなのです。キリストは今も「私が命のパンである。私のもとに来る者は決して飢えることがなく、私を信じる者は決して渴くことがない。」(35節)という言葉で、不平等や差別が蔓延している社会の中で飢え渴いている私たちを招いて命を分け与えてくださいます。そして私たちも誰かの命になるように導いてくださっているのです。

(※聖書は裏面に記載されています)

<福音書> ヨハネによる福音書 6章 37~51節

37 父が私にお与えになる人は皆、私のもとに来る。私のもとに来る人を、私は決して
追い出さない。38 私が天から降って来たのは、自分の意志を行 うためではなく、私をお遣わ
しになった方の御心を行 うためである。39 私をお遣わしになった方の御心とは、私に与
えてくださった人を、私が一人も失 うことなく、終わりの日に復活させることである。40 私
の父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、私 がその人を終わり
の日に復活させることだからである。」

41 ユダヤ人たちは、イエスが「私 は天から降って来たパンである」と言われたので、イエスの
ことをつぶやいて、42 こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も
母も知っている。どうして今、『私 は天から降って来た』などと言うのか。」43 イエスは答え
て言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。44 私をお遣わしになった父が引き寄せてくださ
らなければ、誰も私のもとに来ることはできない。私はその人を終わりの日に復活させる。45 預
言者の書に、『彼らは皆、神に教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、私
のもとに来る。46 父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。47
よくよく言っておく。信じる者は永遠の命を得ている。48 私は命のパンである。49 あなたが
たの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。50 しかし、これは、天から降って来たパン
であり、これを食べる者は死なない。51 私は、天から降って来た生けるパンである。このパンを
食べるならば、その人は永遠に生きる。私 が与えるパンは、世を生かすために与える私の肉
である。」